

講演会要旨

講演に先立って、駒瀬裕子男女共同参画委員会委員長より、委員会活動や本講演会の趣旨、メンター相談会などについての説明がありました。

講演1：高増哲也先生「男女共同参画がアレルギー学会にもたらすもの」

駒瀬委員長らによる調査によれば、本学会における女性の割合は、一般演題演者では24%でしたが、特別企画演者は9%、特別企画座長は1%に過ぎません。高増先生は、このような状況を踏まえ、アレルギーの分野で期待される男女共同参画のあり方についてお話をされました。現在医療界では、多職種が連携して役割を担うスキルミクスへの流れが進んでいます。たとえば小児アレルギー診療では、身体の治療だけでなく心理的、社会的側面も含めたサポートが求められます。各職種が枠組みを超えて知識や技術を持ち、連携することで、人的資源の有効活用や、医療サービスの向上が期待されます。そのためには医療全体の仕組みの見直し、権限の委譲、キャリアパスの作成などが必要であり、事例としてアレルギーエデュケーター制度の紹介がありました。アレルギーの医療に生活者の視点を持つこと、すなわち男性的発想法に加え女性的発想法が十分に発揮されることの大切さを述べられ、本学会が一層飛躍することへの期待と道筋を示していただきました。

男女共同参画が アレルギー学会にもたらすもの

神奈川県立こども医療センター

アレルギー科 高増哲也

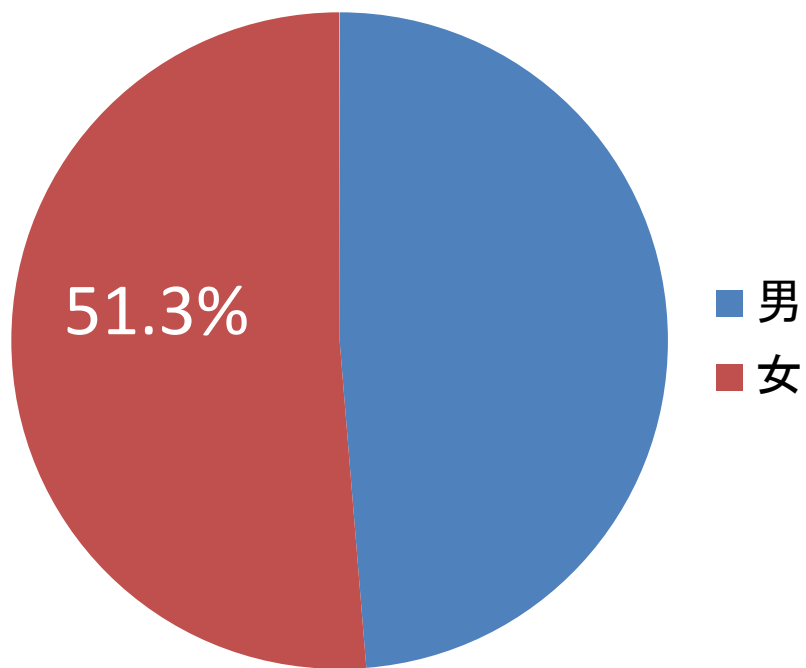
日本アレルギー学会 COI 開示

筆頭発表者名: 高増 哲也

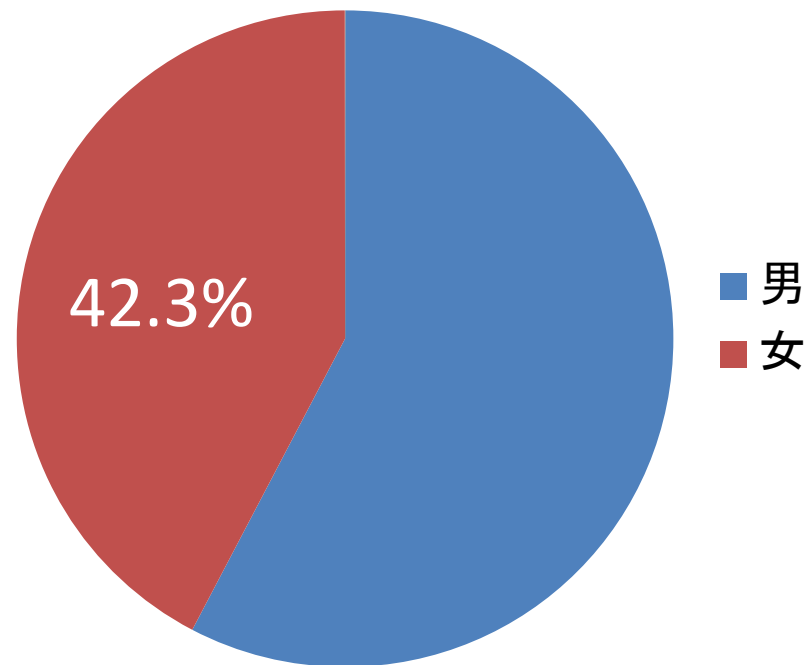
演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。

日本の男女比

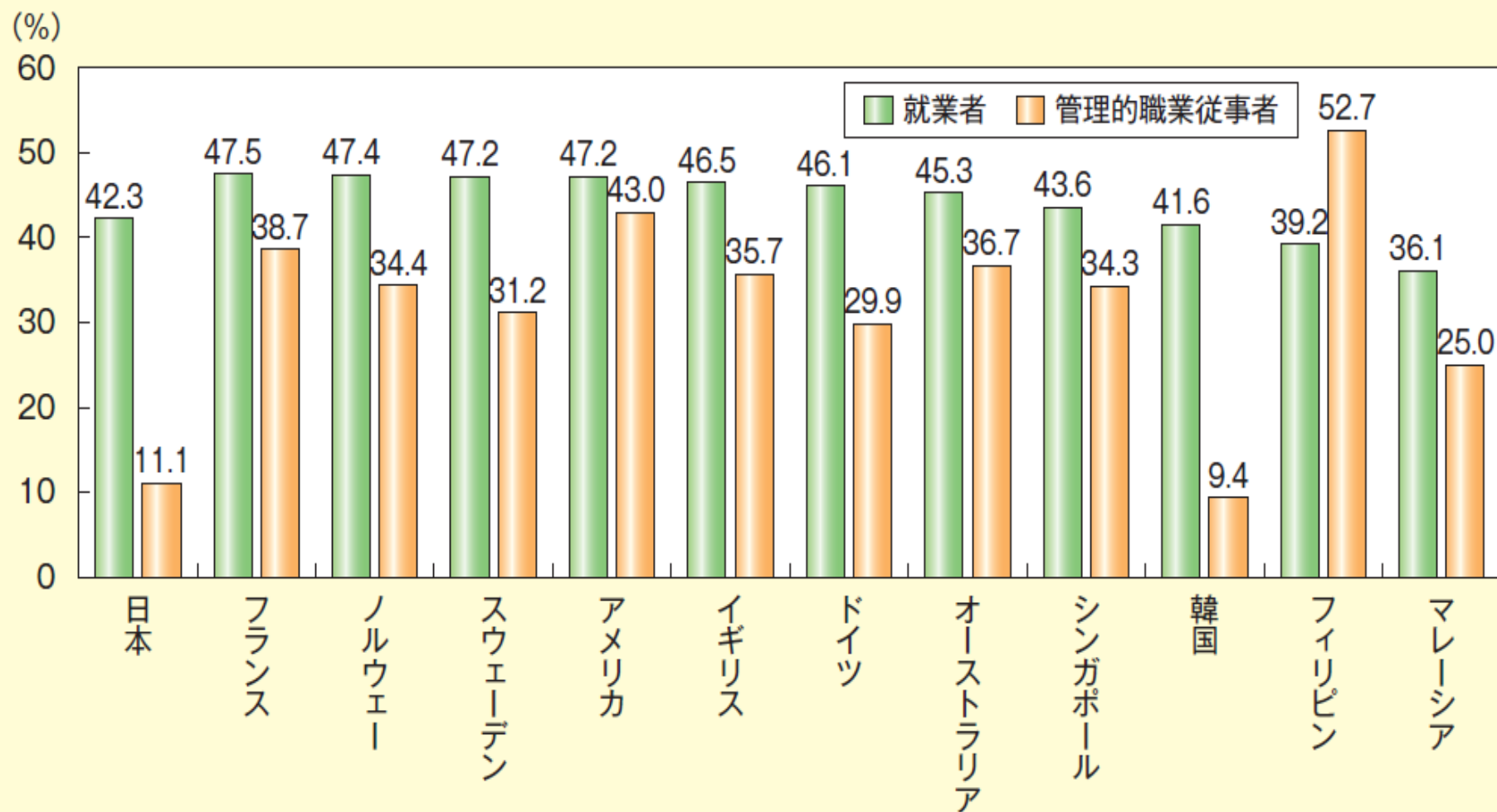
人口



就業者

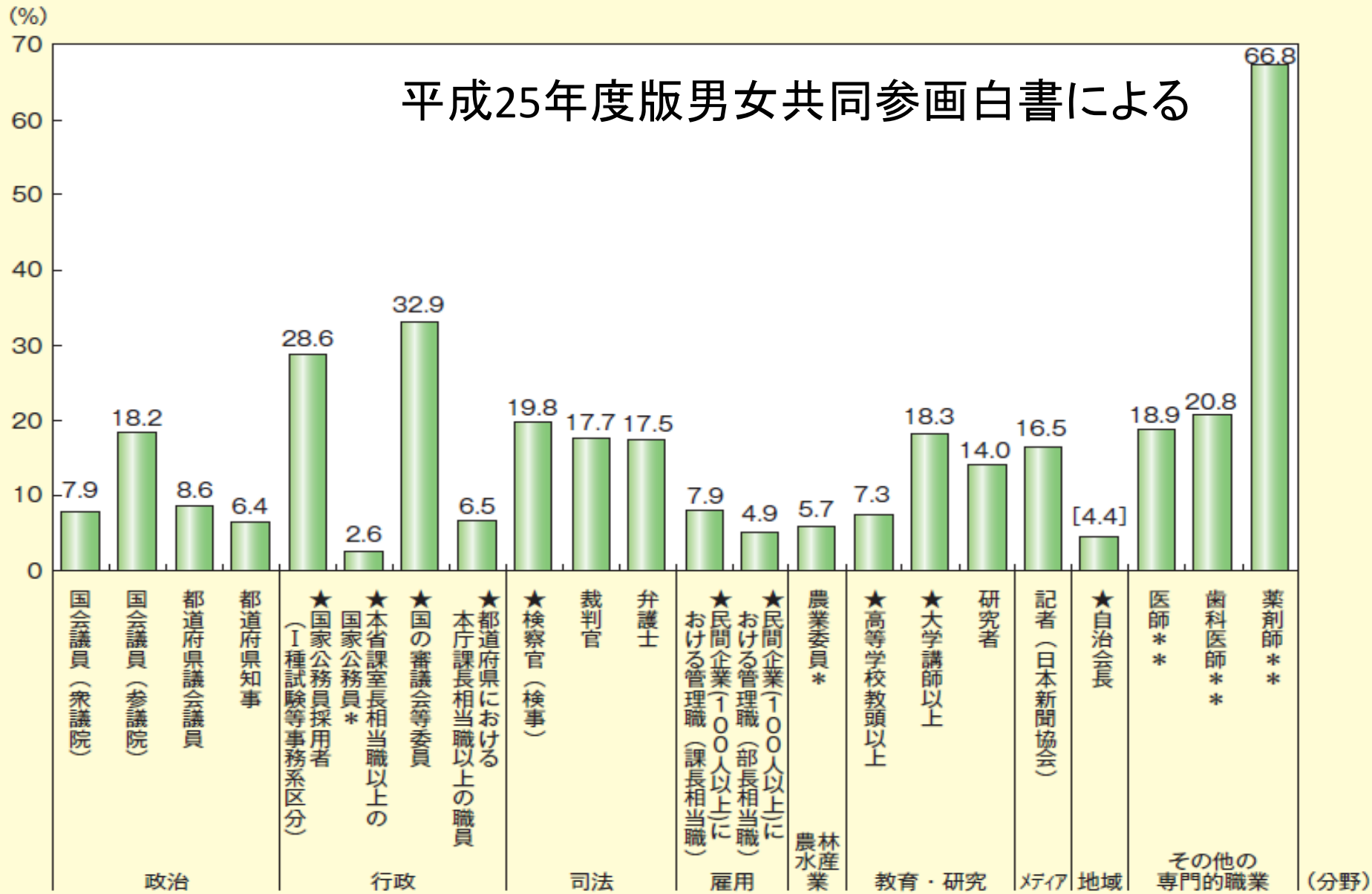


就業者と管理的職業従事者における女性割合



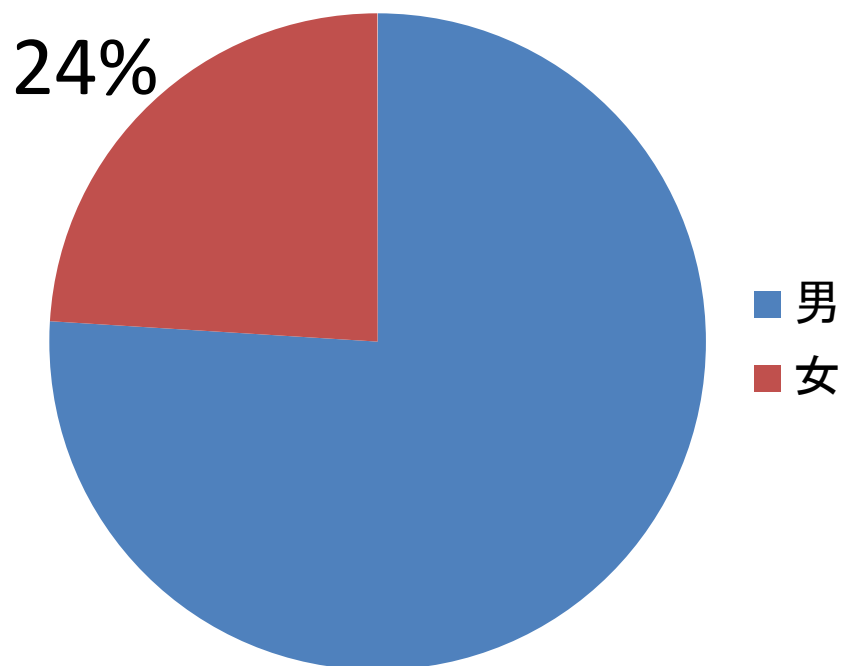
平成25年度版男女共同参画白書による

指導的地位の女性の割合

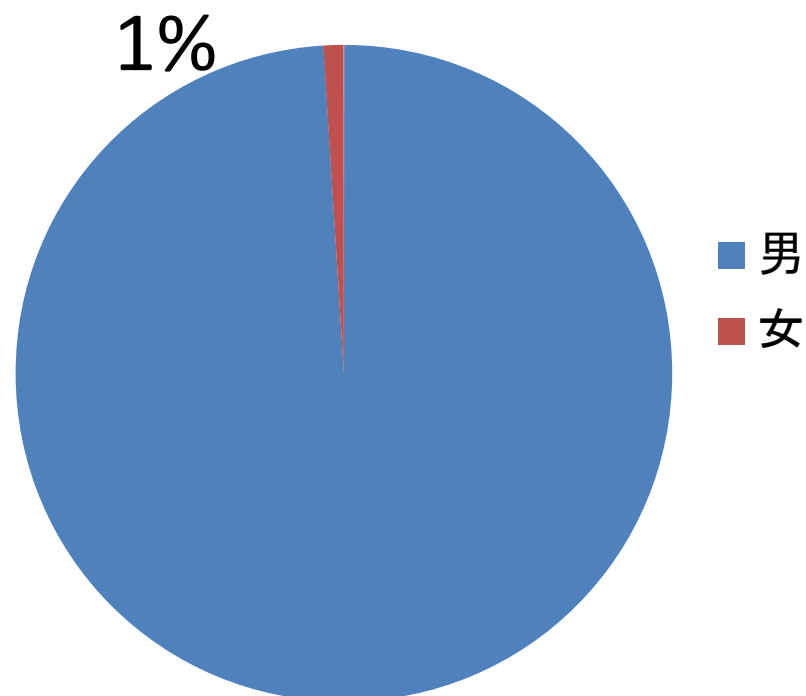


日本アレルギー学会では

一般演題



特別企画座長



これが意味していること

- 当の女性にとって活躍の機会が不足しているというだけでなく、
- 社会全体が人的資源を有効に活用できていないということ、
- その仕組みを見直す必要があることを意味している。

時代はスキルミクス！

薬剤師

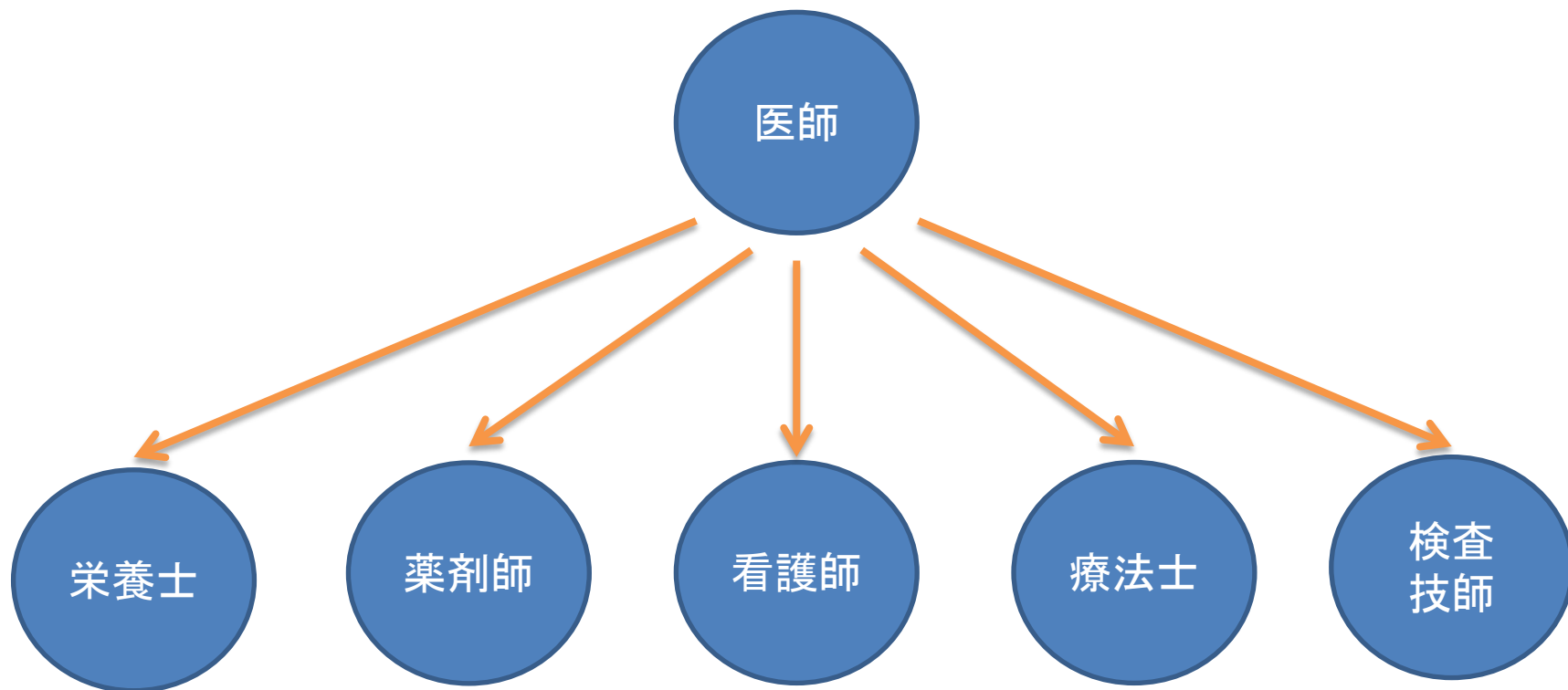
管理
栄養士

医師

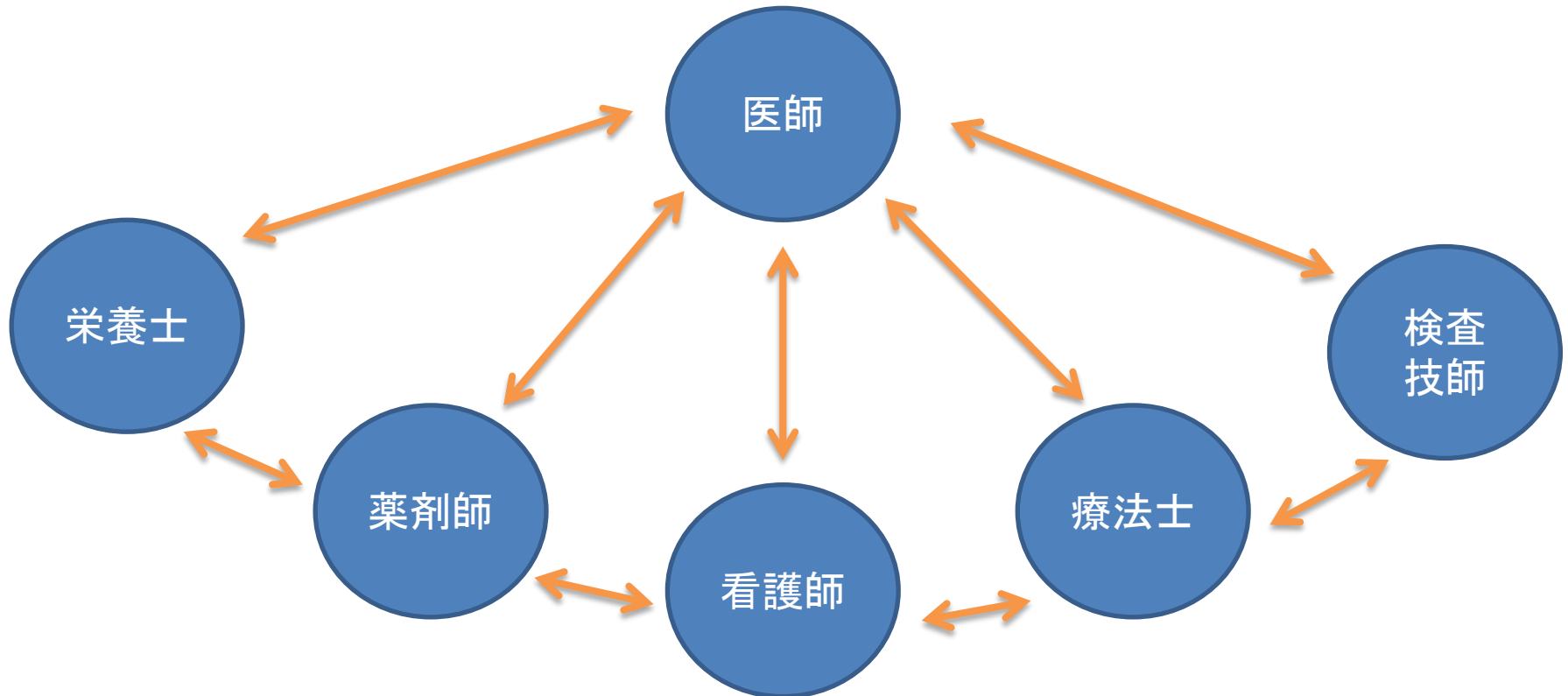
看護師



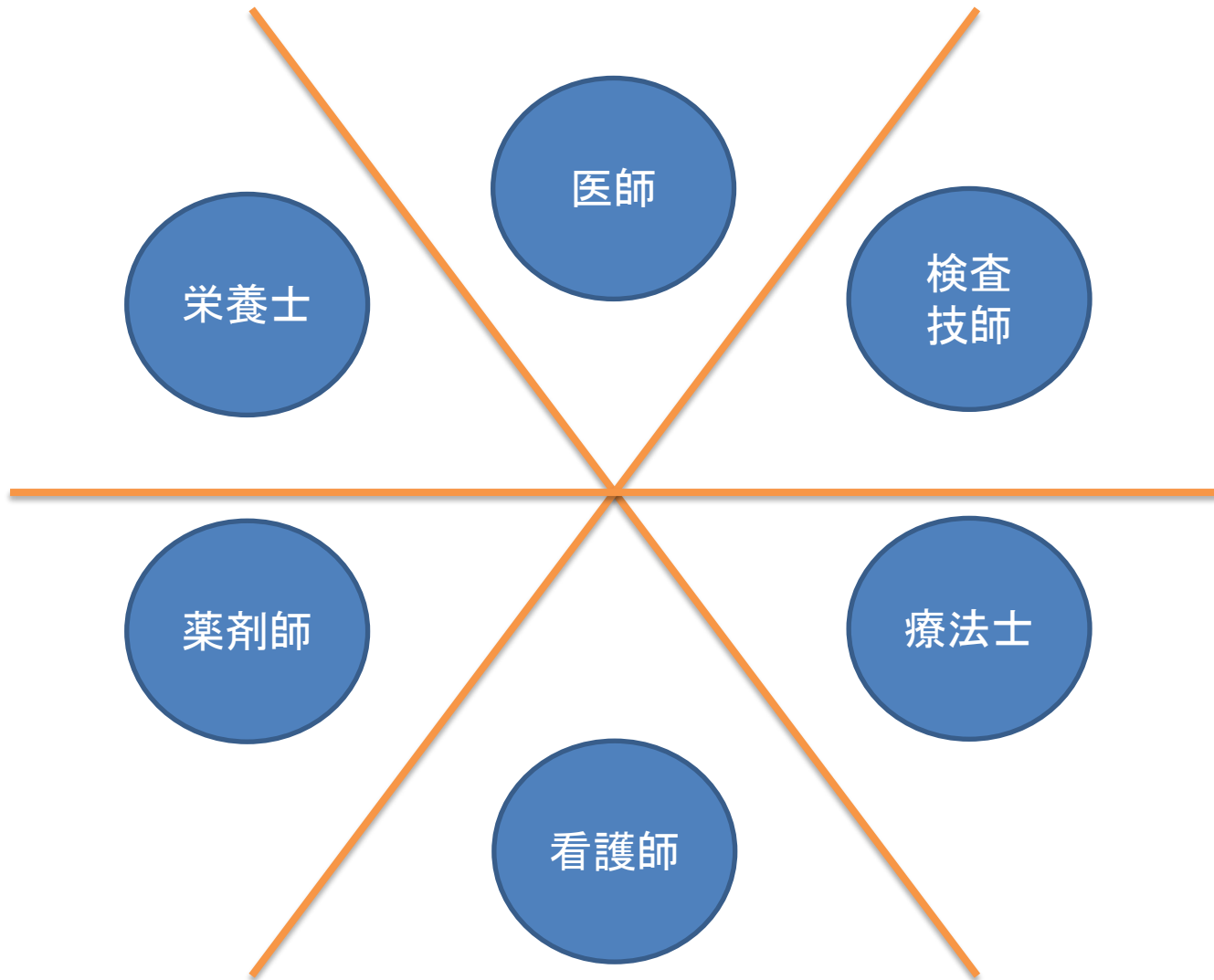
医療の古典的モデル



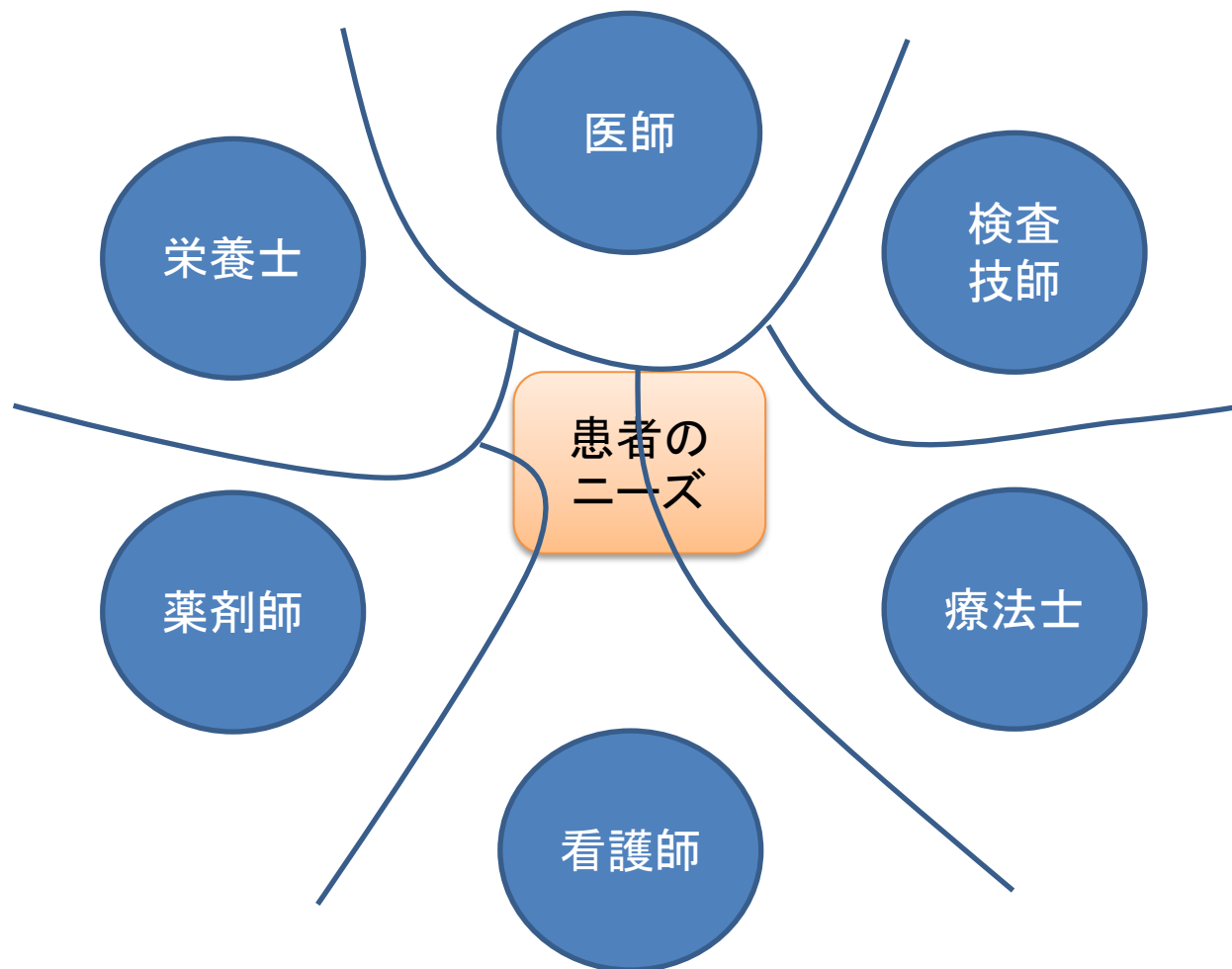
multidisciplinary model

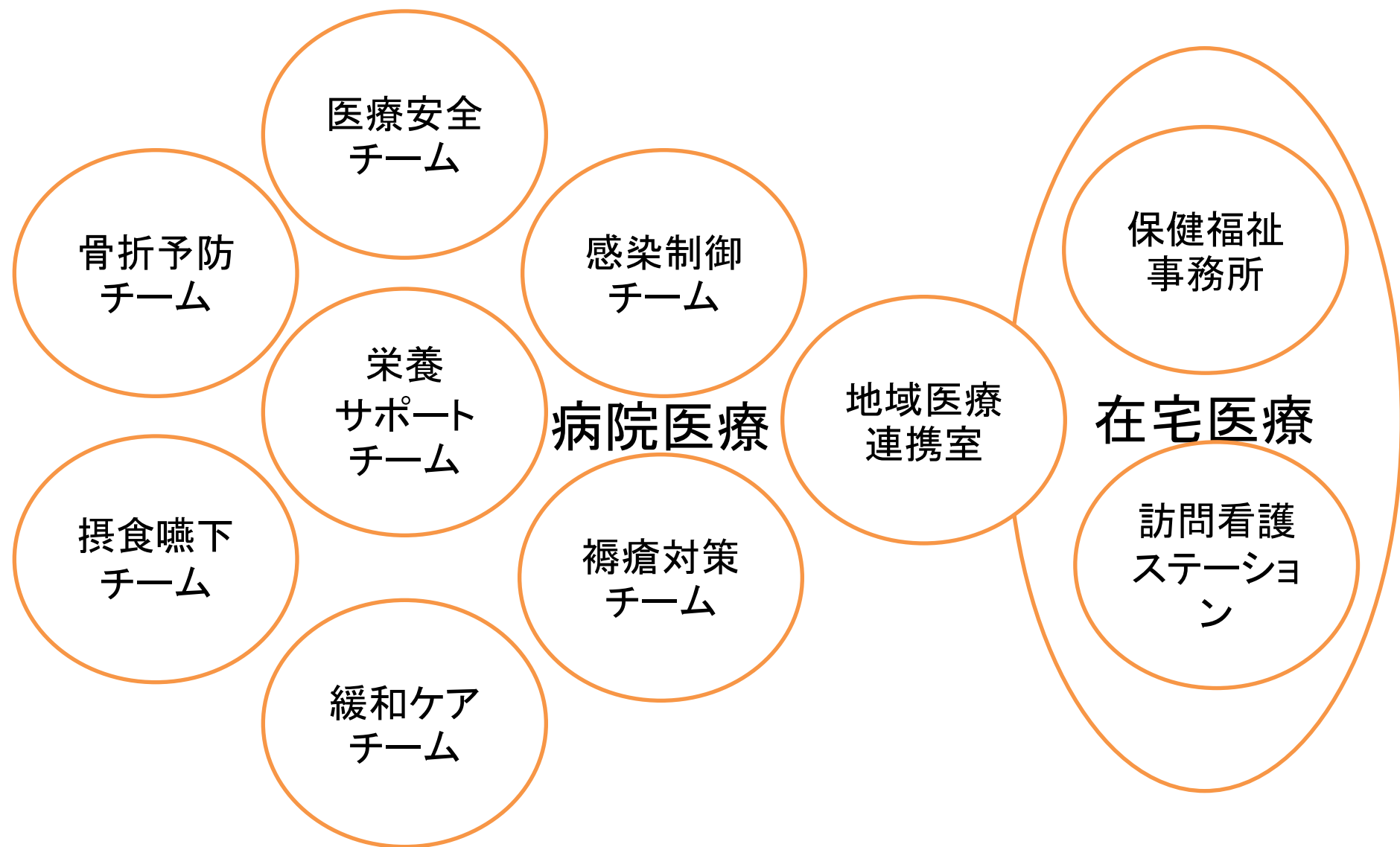


interdisciplinary model



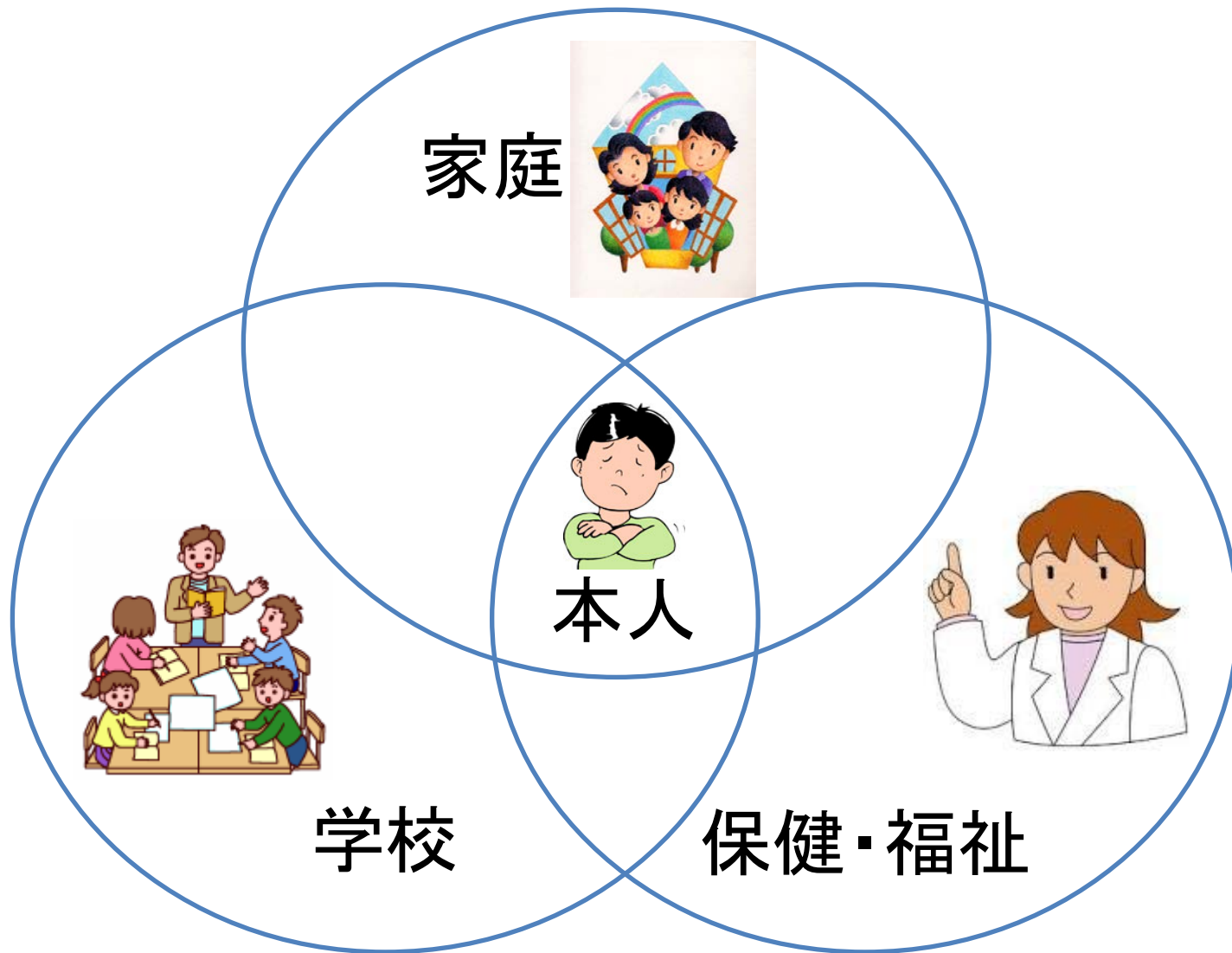
transdisciplinary model





各種のチーム医療どうしの横の連携をすすめよう

こどもをとりまく環境



男女共同参画とスキルミクス

- 医療全体のしくみの見直し
 - 権限の委譲
 - キャリアパスの作成
-
- 人的資源を有効に活用
 - 医療サービスの質を高める

小児アレルギーエデュケーター制度

- アレルギーに詳しい各種医療スタッフ
- 新しいチーム医療におけるリーダーとして育つ可能性
- 変革する現代医療において注目される位置



チーム医療が成功するための条件

- 個々の職種のスタッフが その枠組みを超えて、
以下の3つをもっていることが条件となる
- アレルギー疾患の病態、治療に対する共通の**知識**
- 患者指導に対する基本的な**技術**
- 他の医療スタッフとの連携を行っていく**調整力**



第32回

日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会

The 32th Japanese Society of Pediatric Intractable Asthma and Allergic Diseases



スキルクス!! こどものアレルギーー



会期 2015年 6月20日(土)
6月21日(日)

会長 高増 哲也
(神奈川県立こども医療センター アレルギー科)

会場 ワークピア横浜 (横浜市)

〒231-0023 横浜市中区山下町 24-1
TEL 045-664-5252 FAX 045-664-6743

演題募集期間 2015年1月15日(木)~2月15日(日)

大会事務局 事務局長: 益田 大幸

神奈川県立こども医療センターアレルギー科

〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川2丁目1-3 8-4

Tel 045-711-2351

第32回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会運営担当

(株)プロコムインターナショナル内

〒135-0063 東京都江東区有明 3-6-11 TFT ビル東館9階

Tel 03-5520-8821 Fax 03-5520-8820

Email nanchi32@procomu.jp

<http://www.procomu.jp/nanchi2015/>



男女どちらにとっても・・・

- 女性医師が活躍する場を確保することは、男性医師にとっても過度の負担を軽減することにつながる。
- 現在、ライフワークバランスを見直す必要性が強調されているが、それは男性にも女性にもいえることである。



仕事の質を評価する「ものさし」



日本アレルギー学会にとって

- 男性的発想法中心の医学・医療から
- 女性的発想法が十分に発揮された医学・医療に向かう



- 日本アレルギー学会が一層、社会から求められている姿に飛躍する

医学的進歩

- アレルギー疾患の病態・治療についての医学的進歩にはめざましいものがある。
- 最新の医療を享受することができれば、多くの患者にとって生命の危機がないだけでなく、日常生活上ほぼ困らない状態を期待できるところにまでたどり着いた。

現実

- 一方で、実際にはアレルギー患者は未だに多くの困難な状況に苦しんでいる。
- 医学的進歩と現実のギャップを埋めるための医療のしくみが必要。

ステロイド外用薬に対する不安

ダニ対策としての部屋の掃除の指導

より適切な医療の提供へ

